様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２１ 日現在

機関番号：１３１０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2012～2015
課題番号：２４５３１２４０

研究課題名（和文）先天性盲ろう児の共創コミュニケーションに関するデータベースの構築

研究課題名（英文）Data base of co-creative communication with children who are congenital deafblind

研究代表者
土谷　良巳（TSUCHIYA, Yoshimi）

上越教育大学・学校教育研究科（研究院）・教授

研究者番号：００１４２０００

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,800,000円

研究成果の概要（和文）：　先天盲ろう児とのコミュニケーションに関して、共創コミュニケーションの観点から取り組まれた実践をデータベースとして整理した。データベースの対象となった先天盲ろうの子どもは１３名であった。データベースの枠組みは、「先天盲ろうの子どもとのコンタクトと社会的インタラクションの成立」および「先天盲ろうの子どもとの意味の共有とナラティブの生成」の観点から構成した。収集した多くの実践から６４のエピソードを抽出し、すべてのエピソードについて実践場面のビデオクリップと個々のエピソードを説明する文章を作成し、データベースとして整理した。

研究成果の概要（英文）：The data base of co-creative communication with children who are congenital deafblind was constructed. The number of subjects was thirteen children who are congenital deafblind. The data base is based on two categories "Contact and Social Interaction" and " Shared Meaning and Narratives". The data base has sixty four episodes with video clips and episodes descriptions.

研究分野：重複障害教育

キーワード：共創コミュニケーション　先天盲ろう　データベース　実践事例　エピソード記述

１．研究開始当初の背景

（１）盲ろう二重障害はきわめて数の少ない障害であるが,視覚と聴覚という外界からの情報摂取の主要な器官が重複して障害されているため,コミュニケーションと移動に大きな困難を伴っており,行動上も発達上も重篤な障害状況を呈する場合が少なくない独自の障害である.

（２）特に先天盲ろう児は,自然言語の発達が極めて困難なだけに,早期からのコミュニケーション支援が重要な課題となっている.その第一歩は,触覚をベースにした身体的なやりとりを形成することで,初期的なコミュニケーションを開発することである.この観点から取り組まれた「共創コミュニケーション」パラダイムによるアプローチは欧州において大きな成果を挙げてきた.

（３）しかしながら,重度化した先天盲ろう児はほとんどその対象とはなっておらず,障害の程度が重度である先天盲ろう児を対象にして,そのコミュニケーションを共創コミュニケーションの観点から開発する研究が必要となっている.換言すれば,対象とする先天盲ろう児の障害の程度に関して,欧州における共創コミュニケーションアプローチによる研究成果と補完し合う関係となることが期待される.

２．研究の目的

（１）重度の障害のある先天盲ろう児とその教師や専門家とでなされる実際のコミュニケーションに関して,先天盲ろう児とコミュニケーション･パートナーとが共同活動を創成する（共創コミュいけーション）という観点から,ビデオ映像に記録された実践資料を分析し,デジタルデータベースを構築する.

（２）次いで,作成されたデータベースに関するエピソード記述及び共創コミュニケーションの観点からの解説をセットにしたブックレットを作成し,先天盲ろう児の教育,福祉の実践家,専門家に公開することにより,わが国の盲ろう教育,福祉の向上に資することを目的とする.

３．研究の方法

（１）研究代表者及び分担者の実践事例（自験事例）から,先天盲ろう児とのコミュニケーションに関するビデオ映像記録を収集し,その内容に関して詳細に検討する.その上で,データベースの基礎資料となるビデオクリップとそのエピソード記述を作成し,研究代表者及び分担者とで共有する.

（２）作成されたビデオクリップが共創コミュニケーションによるアプローチとして適切であるか,その妥当性に関して,個々のビデオクリップ毎に検討する.特に,本研究において新たな対象となった「重度の障害のある先天盲ろう児」とのコミュニケーションに関して,共創コミュニケーションの観点から検討する際の妥当性に関して,欧州の専門家との協議を行う.

（３）（２）の成果を踏まえ,欧州における共創コミュニケーションアプローチの枠組みを検討しつつ,本研究における共創コミュニケーションデータベースの枠組みを新たに作成する.

（４）（２）（３）の成果を踏まえ,基礎資料として収集したビデオクリップ及びそのエピソード記述に関して,個々にその妥当性と信頼性を再度検討し,データベースに当てはめるビデオクリップ及びそのエピソード記述を精選する.

（５）（４）に基づきビデオクリップ及びエピソード記述からデータベースを構築する.

（６）データベースに関して,共創コミュニケーションの概念,データベースの概要、データベース本体,欧米における共創コミュニケーション研究の動向に関して解説を加えてブックレットを作成する.

４．研究成果

（１）データベースの対象となった先天盲ろう児

表１に示した 13 名がデータベースに示したエピソードの対象となった.その視覚障害と聴覚障害の状態は下記の通りである.すなわち,

・盲でろうである者：4 名
・盲で難聴である者：4 名
・弱視でろうである者：3 名
・弱視で難聴である者：2 名

また,12 名が視覚障害と聴覚障害に加えて他の障害を併せ有していた.

表１.対象児

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

V1（12 歳 3 月,以下 12y3m と記載）主障害：先天性風疹症候群,弱視･高度難聴・知的障害
V2(4y10m)主障害：チャージ連合,弱視・ろう・知的障害・肢体不自由
V3(13y5m)主障害：不明,盲･ろう・知的障害
V4（3y9m）主障害：脳奇形,盲･難聴・知的障害・肢体不自由
V5(3y9m)主障害：低出生体重児,盲･難聴・知的障害・肢体不自由
V6（4y5m）主障害：低出生体重児,盲･難聴
V7（17y0m）主障害：不明,盲・ろう・知的障害・肢体不自由
V8(6y5m)主障害：低出生体重児,弱視,難聴,知的障害
V9(17y11m)主障害：先天性多発奇形症候群,盲,難聴,知的障害,肢体不自由

V10(16y6m)主障害：先天性多発奇形症候群,盲・ろう･知的障害
V11(11y8m)主障害：不明,盲・ろう･知的障害
V12(14y3m)主障害：先天性風疹症候群,弱視・ろう・知的障害
V13(38y9m)主障害：不明,弱視･ろう･知的障害
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

（２）データベースの構成
データベースを構成する概念は①「先天盲ろうの子どもとのコンタクトと社会的インタラクションの成立」と②「先天盲ろうの子どもとの意味の共有とナラティブの生成」に大別され,それぞれ以下に示す下位概念によって構成された.

①先天盲ろうの子どもとのコンタクトと社会的インタラクションの成立
①−１二者間のインタラクションの階層性
階層１：相互的注意と接近（６エピソード）
階層２：調律及び相互調整（２エピソード）
階層３：相互的インタラクション（３エピソード）
階層４：発信・受信の交代（２エピソード）
①−２三項間のインタラクションの階層性
階層１：共同注意と接近（１１エピソード）
階層２：共同活動（６エピソード）
階層３：調律及び相互調整（２エピソード）
階層４：相互的インタラクション（１エピソード）
階層５：発信・受信の交代（１エピソード）
①−３インタラクションに作用する要因
要因１：リズムとテンポ（２エピソード）
要因２：新奇性及び情報処理（１エピソード）
要因３：探索と意味の共有（２エピソード）
要因４：心的イメージとそのカテゴリー化（２エピソード）
要因５：身体的イメージ痕跡の生成（３エピソード）
要因６：情動的没入と情動的調整（２エピソード）

②先天盲ろうの子どもとの意味の共有とナラティブの生成
②−１意味の共有とナラティブの階層性
階層１：共有経験に基づく身振り表現の出現（４エピソード）
階層２：意味の共有（５エピソード）
階層３：共有経験に基づくナラティブ（４エピソード）
階層４：ナラティブから対話へ（５ピソード）
階層５：ネゴシエーション（意味の共同探索）（３エピソード）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計２件）
①土谷 良巳，障害の重い子どもとの共同活動における共同性と相互性―行動体制間（相互）調整の観点からの考察―.上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要，査読無,22 巻，2016,pp.9-18.
②中村 保和，ハーラーマン･ストライフ症候群児に対する家庭訪問による教育的係わり合いの経過に関する一考察.群馬大学教育学部紀要人文･社会科学編,査読無,65 巻,2016,pp.145-159.

〔学会発表〕（計７件）
①中村 保和・岡澤 慎一・土谷 良巳･菅井 裕行･笹原 未来（印刷中）先天盲ろう児との共創コミュニケーションの様相-（4）Transition to the cultural language に関する実践を巡って-.日本特殊教育学会第 54 回大会発表論文集.（電子データ）

②岡澤 慎一・中村 保和･土谷 良巳･菅井 裕行（2015）障害の重い人の教育における「課題学習」の意義-現代的状況を踏まえた実践的再考-.日本教育心理学会第 57 回総会発表論文集,86-87.

③中村 保和・岡澤 慎一・土谷 良巳・菅井 裕行（2015）先天盲ろう児との共創コミュニケーションの様相-（3）Meaning making に関する実践を巡って-.日本特殊教育学会第 53 回大会発表論文集.（電子データ）

④土谷 良巳・中村 保和･菅井 裕行･岡澤 慎一･笹原 未来（2014）障害の重い子どもが取り組む学習とは（続）-その多面性について-.日本教育心理学会第 56 回総会発表論文集,152-153.

⑤岡澤 慎一・中村 保和・土谷 良巳・菅井 裕行・笹原 未来（2014）先天盲ろう児との共創コミュニケーションの様相-（2）Triadic interaction に関する実践を巡って-.日本特殊教育学会第 52 回大会発表論文集.（電子データ）

⑥土谷 良巳・菅井 裕行･岡澤 慎一･中村 保和･笹原 未来（2013）障害の重い子どもが取り組む学習とは-その現代的課題と展望-.日本教育心理学会第 55 回総会発表論文集,96-97.

⑦中村 保和・岡澤 慎一・笹原 未来・土谷 良巳・菅井 裕行（2013）先天性盲ろう児との共創コミュニケーションの様相-（１）Dyadic interaction に関する実践を巡って-. 日本特殊教育学会第 51 回大会発表論文集（電子データ）

〔図書〕（計１件）
①土谷 良巳,放送大学教育振興会,重複障害教育Ⅲ:盲ろう（盲ろう二重障害）教育.柘植雅義・木船憲幸（編）改訂新版特別支援教育総論，2015,pp.122-139.

６．研究組織
(1)研究代表者
土谷　良巳（TSUCHIYA, Yoshimi）
上越教育大学・大学院学校教育研究科･教授
研究者番号：００１４２０００

(2)研究分担者
菅井　裕行（SUGAI, Hiroyuki）
宮城教育大学・教育学部・教授
研究者番号：９０２９０８９０

岡澤　慎一（OKAZAWA, Shinichi）
宇都宮大学・教育学部・准教授
研究者番号：２０４３１６９５

笹原　未来（SASAHARA, Miku）
福井大学･大学院教育学研究科・講師
研究者番号：９０５７２１７３

中村　保和（NAKAMURA, Yasukazu）
群馬大学・教育学部・准教授
研究者番号：６０４６７１３１